

# 第21回 日・韓・中ジュニア交流競技会 報告書



※記事中の写真が，光の関係で色が薄くなっています。

日時：2013年8月23日～29日  
場所：中国 濰坊市  
狭山国際テニスセンター

役員 団長 越善 隆 (全国高体連テニス部副部長)  
男子監督 黒田 守 (全国高体連テニス部常任委員)  
女子監督 岸 徹 (全国高体連テニス部副部長)

選手 男子 河野 優平 (柳川) 竹元 佑亮 (相生学院)  
石井 行 (東海大学菅生) 林 大貴 (大阪産業大学附属)

女子 観音堂 万友 (相生学院) 細沼 千紗 (富士見丘)  
山口 真琴 (九州文化学園) 上 唯希 (園田学園)



## 対戦結果

8月25日

男子	日本	1 VS 4	中国
シングルス1	竹元 佑亮	1 [4-0/0-4/1-4] 2	ZHOU Zhe
シングルス2	林 大貴	1 [1-4/4-2/1-4] 2	GUO Tianjia
ダブルス	竹元 佑亮 河野 優平	1 [2-4/4-0/0(4)-1] 2	GUO Tianjia GAO Juntong
シングルス3	石井 行	1 [4-1/3-5/2-4] 2	LI Zeyu
シングルス4	河野 優平	2 [4(5)-5/4-2/4-0] 1	GAO Juntong

8月25日

女子	日本	2 VS 3	中国
シングルス1	細沼 千紗	2 [5-3/4-1] 1	XIN Yuan
シングルス2	山口 真琴	0 [2-4/2-4] 2	YU Yuanwei
ダブルス	細沼 千紗 上 唯希	2 [1-4/4-2/1-0(8)] 1	XIN Yuan YU Yuanwei
シングルス3	観音堂 万友	0 [2-4/4(4)-5] 2	Zhang Chan
シングルス4	上 唯希	0 [4-2/1-4/2-4] 2	GAO Xinyu

8月26日

男子	日本	3 VS 2	濰 坊
シングルス1	石井 行	1 [1-4/4-0/2-4] 2	WANG Aoxiong
シングルス2	河野 優平	2 [4-2/4-1] 0	ZHOU Xufan
ダブルス	石井 行 竹元 佑亮	0 [2-4/1-4] 2	WANG Aoxiong ZHOU Xufan
シングルス3	林 大貴	2 [4-0/4-0] 0	WANG Honghan
シングルス4	竹元 佑亮	2 [4-0/4-0] 0	LI Yuxuan

8月26日

女子	日本	1 VS 4	濰坊
シングルス1	細沼 千紗	0 [3-5/0-4] 2	SHAO Yijia
シングルス2	山口 真琴	1 [4-0/1-4/3-5] 2	WU Shihan
ダブルス	山口 真琴 観音堂 万友	1 [4 (4) -5/5-3/ 0 (11) -1] 2	TANG Jinli SHAO Yijia
シングルス3	上 唯希	1 [4-1 4 (6) -5 1-4] 2	TANG Jinli
シングルス4	観音堂 万友	2 [4-1/4-0] 0	QI Jiatian

8月27日

男子	日本	5 VS 0	韓国
シングルス1	河野 優平	2 [4-2/4-0] 0	JEONG Inkyo
シングルス2	竹元 佑亮	2 [4-1/4-1] 0	SHIN Geonju
ダブルス	河野 優平 林 大貴	2 [1-4/5-3/ 1-0 (8)] 1	YOON Ilsang KIM Seong Hum
シングルス3	石井 行	2 [1-4/4-1/4-0] 1	YOON Ilsang
シングルス4	林 大貴	勝 W 0 敗	KIM Seong Hum

8月27日

女子	日本	3 VS 2	韓国
シングルス1	細沼 千紗	2 [4-2/4-1] 0	SIM Solhee
シングルス2	山口 真琴	1 [1-4/4-2/1-4] 2	JEONG Youngwon
ダブルス	細沼 千紗 上 唯希	2 [5-3/4-0] 0	SIM Solhee AHN Youjin
シングルス3	観音堂 万友	0 [0-4/3-5] 2	AHN Youjin
シングルス4	上 唯希	2 [4-2/4-1] 0	JEONG Sunam



団長

越 善 隆

全国高体連テニス部副部長

第21回日・韓・中ジュニア交流競技会は6回目の参加となる。毎回レベルアップしている感じがした。私自身、退職の年で最後の大会であろうという事もあり、自分自身では過去5回よりは気合いが入っていた。中国のフェイフォン市という所は、青島から2時間ほどの田舎だと思っていたら、900万人を越す人口で山東省では2番目に大きな市である。山東省の人口が9,500万人を超え、地元参加の山東省チームの女子NO1選手は中国代表選手よりも強く、中国の広さを感じた。

我が日本チームは男子が韓国に次ぎ2位、女子は優勝した韓国に勝利したものの4位に終わり、日・韓・中3連覇は達成できず、非常に残念な結果に終わった。しかし、最終戦に行われた、韓国戦に勝利したのは、日本の本当の力を見たような気がした。

PM2.5や鳥インフルエンザなど感染症や尖閣諸島問題など、決して中国は日本人にとってよい印象ではないが、地元のボランティアや多くの中国人は日本に対して、そんなに悪い印象をもっていない事にはびっくりした。また、その人なつっこさは、日本人のそれとほとんど変わらないと思った。われわれ日本人が中国を悪く思うのは、一部の新聞やテレビの影響が大きく、その現場に行ってみれば前述したような事なのである。また、中国に居て一番気になった事は、連日福島原発の映像が流れていた事である。あの映像を毎日見ていれば、我がふるさと青森県は今頃放射能を浴びて、人が住めるような状況でないような錯覚を覚えた。大衆に発信する媒体はもっと正確な情報を流すべきだと感じたし、また我々も情報の精査とその奥に潜む攻略を見抜く力を養うべきであると思った。私自身今回の中国遠征は、気乗りがしませんでした。が、実際参加してみて様々事柄があり、今後の人生に役立つものと感じた。

最後に、参加なさった選手の皆様ご苦勞様でした。また、日本体育協会の役員の皆様にも感謝申し上げます。



男子監督

黒 田 守

全国高体連テニス部常任委員

中国潍坊市で行われた第21回日・韓・中ジュニア交流競技会に、男子の監督として参加させていただきました。国際大会の監督を務めるのは初めてのことで、不安もありましたが、多くの方々のご支援を受け、素晴らしい選手とともに充実した10日間を送ることができましたことを感謝しております。

8月20日から2泊3日の日程で、大阪の靱公園テニスコートで事前合宿を行いました。この合宿では、関西大学の学生、ブリジストンの井本コーチの指導のもと、技術面の確認はもとより、日本の高校生の代表選手としての意識を高めることができたと思います。また、お互いがお互いを尊重しあい、「日本チームとしての和」ができた、有意義なものとなりました。

8月23日中国に着き、翌日試合会場での練習を行いました。選手たちの顔つきも、いよいよ試合だという期待と緊張感につつまれたものへと変わり、引き締まってきました。練習の後、監督会議が行われ、(1)4シングル、1ダブルスで行うこと (2)6面の会場のうち、両サイドのコートが暗いため、シングルスはショートセット(4ゲーム)の3セットマッチ、さらにダブルスはノーアドバンテージ方式を採用、ファイナルセットは10ポイントのスーパータイブレークで行いたいということが開催国から提示されました。日本側としては、6面を使用しての3セットマッチを強く希望しましたが、難しいと判断され、提示通りに決まりました。せっかくの国際試合であり、3セットマッチで行わせてやりたかったので、この点はとても残念でありました。

#### 【 第1戦 中国戦 1勝4敗 敗退 】

シングルス1竹元、シングルス2林 ダブルス竹元・河野組、シングルス3石井ともにファイナルまでもつれたが、いずれも敗退。シングルス4に出場したキャプテン河野が一矢を報いるにとどまった。いずれもとても良い試合をしており、勝つチャンスがあっただけに、残念な敗北であった。試合の勝敗を決めたのは、サーブ力の差(サーブスキープ力)と重要なポイントで攻撃的なプレーができたかどうかという点であったと分析します。その点で、中国選手の方がやや上回っていたといえます。

【 第2戦 中国濰坊戦 3勝2敗 勝利 】

シングルス1では相手選手のコースの打ち分けがうまく、石井が接戦の末に敗退したものの、シングルス2の河野、シングルス3林、シングルス4竹元がいずれも勝利した。

【 第3戦 韓国戦 5勝0敗 勝利 】

この日は、どの選手も今大会の集大成としてのベストマッチを展開した。シングルス1河野がしっかりと実力を発揮して勝利すると、シングルス2竹元もパワーとうまさを併せ持つ選手を相手に、素晴らしい動きと高い集中力で快勝。続くダブルス河野・林組はファイナルまでもつれ、1点を争う熱戦となったが、2人のコンビネーションが冴え、勝利。シングルス3の石井もショットが冴え、快勝した。この韓国戦は日本選手にとって、今後に繋がる「自信をつける」試合となったと、選手達の試合後の笑顔からうかがえました。

男子選手も女子選手も「高体連テニス全国11万人の代表としての自覚」を持ち、本当に真摯な姿勢で取り組んでくれました。日頃から各学校で指導されている先生方のテニスに向かう情熱や姿勢が各選手に浸透していることを物語っていると感じました。

最後になりましたが、お世話になりましたすべての方々に感謝申し上げます。私自身も、テニスをそしてスポーツを通じての「繋がり」を感じることができるようになりました。ありがとうございました。



女子監督

岸 徹

全国高体連テニス部副部長

中国潍坊市で行われた日・韓・中ジュニア交流競技会に、女子監督で参加しました。

自分自身2年前に同じく女子監督で参加しましたが、開催地が名古屋市だったこともあり、周りのサポートや選手もたくさんの応援の中で試合ができたので非常にやりやすかったことを覚えています。今回は、中国ということで現在の日中関係のこともあり、不安の中での出発でした。

しかし、イ坊市に着くと街は意外ときれいでホテルもよく、1週間滞在するにはあまり不自由しない環境でした。中国人の通訳の学生も明るく歓迎してくれました。

この中国遠征にあたり、大阪鞆コートで2泊3日の強化合宿を行いました。ホテルに集合しミーティングを行い、この遠征の趣旨や日本代表として試合に臨む心構え等を団長より話しをしていただき、女子キャプテンを観音堂に決め練習をスタート、初日と最終日は関西大学の学生、2日目をブリヂストンから井本コーチに来ていただき、和気藹々の中にも緊張感を持って練習し、チームJAPANらしい雰囲気ができてきました。関西大学の学生そして井本コーチに改めてお礼を申し上げます。

中国に到着後、会場で半日練習し、緊張感も増してきました。コートは、室内コート、当初6面全面使うものと思っていたところ、両サイドのコートが暗いという理由で4面使用。1対戦1面展開となり、試合方法もショートセットの3セットマッチ、ダブルスはショートセットのノーアドバンテージ、ファイナルセットはスーパータイブレイクという突然のルール変更で戸惑いもありましたが、選手は動揺もせずしっかり戦ってくれました。

試合の方は、1回戦の中国戦がすべてだったように思います。シングルス1の細沼は、日本のエースらしく力・技とも相手を上回り、さい先のいいスタートでした。シングルス2の山口は、力強いストロークが武器でポイントを取るのですが、大事なところでのダブルフォルトでリズムを崩し惜しくも負け。第3試合はダブルス、日本は細沼・上のインターハイ決勝を戦った2人に託しました。結果は、ファイナルセットのタイブレイクまでもつれながら勝利してくれました。続くシングルス3観音堂は、セカンドセット競るもののストレートで負け。2対2になりいよいよシングルス4の上にかかりました。ファーストセット、上は相手の力強いストロークをうまくタイミングをずらしながらドロップショットやアングルショット、そして、ネットプレーと多彩な攻撃でセットを取りました。セカンドセットに入り、相手も上のショットを見切るようになり、次第にペースをつかんでい



きセットを取られイーブン。いよいよファイナルセット一進一退の攻防で2-2なったところで、上のエースになるすばらしいショットが2本連続アウトとコールされ、上の集中力が切れてしまい2-4で負け。

2日目も精彩を欠き地元で1-4で敗退。

このままでは、日本に帰れない。選手全員がそう思いました。しかも最終日は、全勝している韓国相手、どういう結果になるのか私自身不安になりました。

しかし、この不安をエース細沼が振り払ってくれました。シングルス1でいきなり韓国選手を4-2・4-1で圧倒し勝利。上と組んだダブルスでも5-3・4-0と勝ち2勝。シングルス2・3の山口と観音堂も善戦しましたが、惜しくも負け。勝負は、シングルス4の上にかかりました。上は、中国戦での反省もあり試合の流れと相手のテニスを見ながら終始落ち着いてプレーし、見事ストレートで勝ってくれました。

最終日、優勝した韓国戦の勝利は、日本代表らしい勝利でした。

私自身もこの4人にいろいろ教えてもらい、いい経験をさせてもらいました。この4人を指導されている監督・指導者の方々にも本当に感謝しています。

今回は、男子2位・女子4位という結果でしたが、男女とも、とても素直で真剣にこの遠征に取り組んでくれ、我々にとっても非常に良い遠征となりました。

最後になりましたが、お世話になった方々に感謝して報告を終わります。



男子キャプテン

河野 優平

(柳川高等学校)

今回の「日・韓・中ジュニア交流会」に参加させていただきありがとうございました。

インターハイ、全日本ジュニアの疲れが残ってメンバーでしたが、合宿 1 日目から気持ちの盛り上がった練習をすることができ、3 日目で少しずつ調子を上げることができました。

1 日は移動日で、次の日に試合会場で練習をしました。コートに行くと韓国チームが練習をしていて、日本人ではあり得ない圧力のかかったボールを打っていました。そこで日本チームは圧倒されました。しかし、みんなで絶対勝てると気持ちを一つにして試合に臨みました。試合方式は 4 ゲームの 3 セットマッチで、ダブルスはノーアド、ファイナルセットスーパータイブレークのさらに短い試合でした。

初日は中国との試合です。僕はシングルス、ダブルスともに出させてもらいました。ダブルスでは相手が 190 センチくらいの長身の選手でした。サーブ力の違いが大きく、くらいについてはいきましたが、ファイナルセットで負けてしまいました。シングルの相手はダブルスと同じ選手でした。ボールの威力では勝てる相手ではありません。でも、まず相手よりミスをしないうことを心がけ粘りながらも相手を動かして勝つことができました。

2 日目は地元チームでシングルスに出ました。前日の良いプレーのイメージのまま試合ができ、勝つことができました。3 日目は韓国との試合で、2 位決定の試合でした。シングルス、ダブルスともに出させてもらいました。シングルスでは、相手がカウンターを狙う選手だったので、そこに気を付けながら攻めることができました。ダブルスでは、相手の粘りが凄いのので、粘りからの攻撃で少しずつプレーが良くなり、勝つことができました。

全体の成績は、中国に 1 勝 4 敗、地元チームに 3 勝 2 敗、韓国に 5 勝 0 敗で 2 位でした。最初の中国戦が悔やまれましたが、いい試合ができたので満足しています。

今回の遠征では、キャプテンをさせてもらい、自分のチームのキャプテンの大変さに気付くことができました。生活面では、やはり日本のご飯が世界一だなと思いました。ホテルに洗濯機がなく、人生で初めての手洗いをしました。洗濯機の凄さにも気付くことができた遠征となりました。

最後になりましたが、この大会の関係者、高体連テニス部の方々、遠征に引率してさった先生方に、このような貴重な経験をさせて頂いたことを心から感謝します。ありがとうございました。



## 竹元 佑亮

(相生学院高等学校)

今回、この「日・韓・中ジュニア交流会」に参加できたことをほんとうに嬉しく思っています。この中国遠征では、大変で少し嫌だという所もありましたが、たくさんの思い出が出来た、たくさんの貴重な経験をする事が出来ました。

競技の面では、中国、韓国の代表チームに中国の地元チームを含めた3チームで総当たりをしました。初日の対戦相手は中国代表チームでした。身長的にも体重的にもかなりの差があり、少し驚きました。自分はシングルス1とダブルスに出場しましたが、2試合ともファイナルで負けてしまいました。中国の選手は、特にサービスが速く、ストロークももの凄くパワフルなショットを打ってきました。前半は、そのパワーに少し圧倒され、焦りが出てしまい、自分からのミスが増えてしまいました。そこで、自分の持ち味である粘り強さを出して、落ち着いたプレーをしなければならぬと思いました。2日目の対戦相手は中国地元濰坊チームでダブルスとシングルス4に出場しました。ダブルスは負けてしまいましたが、シングルスは勝負がかかった大事な場面で勝つことが出来ました。初日の反省を生かし、落ち着いたプレーが出来たので良かったです。3日目の韓国代表チームとの試合は、シングルス2で出場しました。最終日に自分の納得のいくプレーが出来、勝つことが出来ました。団体戦の結果は2勝1敗の2位でした。優勝を目指していたので悔しいですが、今回のチームメイトと一緒に戦えて本当に良かったです。

試合以外の面では、初め中国に着いた時、空気があまり良くなく少し臭かったです。食事にも慣れるまではあまり食べる事が出来なくて、コンディショニングがとても難しかったです。しかし、このような厳しい環境の中で生活することによって、今の生活がいかに豊かで恵まれているのかを感じる事が出来、改めて感謝の気持ちを持たないといけないと思いました。

この遠征の目的でもある、中国、韓国の高校生との交流、相互理解、技術向上がしっかり自分の中で果たせたと思っています。この経験をしっかり生かし、これからも色々な事にチャレンジし、頑張っていきたいです。

最後になりましたが、この「日・韓・中ジュニア交流会」に参加するにあたりご協力いただきました、全国高体連テニス部の方々をはじめ、団長の越善先生、男子監督の黒田先生、女子監督の岸先生、本当にありがとうございました。



## 石井 行

(東海大学菅生高等学校)

今回は、日・韓・中ジュニア交流競技会に参加させて頂き、ありがとうございました。

私は、今回の中国遠征が初めての海外での試合で、尚且つ日本代表ということで、期待と不安でいっぱいでした。まず、大阪での事前合宿でメンバーと「優勝」を目標にしたので、全員が精一杯練習しました。そして、全国トップの選手たちと練習することで、とても良い刺激となり、皆も調子があがり、とても良い状態で中国に入ることができたと思います。しかし、中国のコートは新しくざらざらしていて、全然ボールが伸びて来ないなど、日本のハードコートとは全く違いました。

そして大会が始まり、4ゲームマッチの3セットマッチでした。初戦は中国代表と戦い、フルセットで負けてしまいました。事前合宿など準備はしっかりしていたのですが、初めての国際大会で緊張し、単純なミスが増え、あまり自分らしいプレーができず、とても悔いの残る試合でした。次の試合は濰坊代表と戦い、シングルスはフルセットで負けてしまいました。自分のプレーは悪くなかったのですが、相手の方が一枚上手でした。また、ダブルスでは、勢いに乗れないままストレートで負けてしまいました。最終戦は韓国代表と戦い、自分から積極的にプレーすることができ、勝つことができました。

結果は、全体で2位に終わってしまいましたが、今回の遠征で学べたことはとても多かったと思います。片言の英語で審判や相手に自分の意思を伝えることや、食事の面でも日本との違いを改めて実感しました。そして、日本代表として戦わせて頂いて、たくさんの経験と、課題を見つけることができたので、今後に活かしたいと思います。そして又、日本代表として戦えるような選手になりたいです。

そして、大会関係者、高体連テニス部の方々、越善先生、黒田先生、岸先生、貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



## 林 大 貴

(大阪産業大学附属高等学校)

まず初めに、日・韓・中ジュニア交流競技会の選手に選んでいただき、とても嬉しく思います。ありがとうございました。

今回の男子メンバーの中で、僕だけが2年生という事で、初めは不安でした。でも合宿が始まると、すごく優しく接してもらえたので、1日目から全力でプレーすることができました。みんなの雰囲気も良く3日間の合宿を終えて中国に入ることができました。

初日の中国戦では、前の日に4ゲーム3セットのショートセットで行うということを知っていたので、サービスゲームが重要なポイントとなるなどと思いながら、試合に入りました。僕自身としても、大事な所でサービスキープすることができずに、接戦を落としてしまいました。日本チームとしてもやはりサービスゲームを取りきれずに負けてしまったので、次からの課題だと思いました。2日目の地元濰坊戦では、昨日の反省点を生かして、僕もキッチリと1勝をあげることができたので嬉しかったです。3日目の韓国戦では、まだ優勝のチャンスもあったので、皆気合いが入っていました。河野君、竹元君と続けて勝利してくれたので、ダブルスに出る僕としては少し気が楽になりました。しかし、そういった心の隙を突かれ、ファーストセットを楽にとられてしまいました。しかし、そこからペアの河野君に引っ張ってもらい、ファイトしてセカンドセットはチャンスを生かすことができました。ファイナルセットのスーパータイブレークでは、キッチリと二人で話し合っただけで戦っていましたし、気持ちの部分で勝つことができましたと思います。その後、石井君も勝利して、結果5-0で完全勝利することができました。

今回の遠征では、先生方や地元の方々にサポートして頂いて、テニスだけに集中する環境を作って頂けたので、すごく充実していました。また、日本代表として、この先輩方とプレーすることができたのは、僕にとってすごく成長できるきっかけとなったし、思い出にもなりました。

最後になりましたが、引率して下さった先生方、地元の方々や今回の遠征に関わってくださった方々、日本チームのみなさん、本当にありがとうございました。



女子キャプテン

観音堂 万友

(相生学院高等学校)

この度は、「日・韓・中ジュニア交流会」に参加させていただきありがとうございました。メンバーに選ばれたことはすごく嬉しかったのですが、インターハイと全日本ジュニアでシードをもらっていたにもかかわらず、不甲斐ない結果に終わってしまい、自信を失っていた時だったので、日本のトップレベルの選手たちとの合宿と、日本代表として海外へ行き、試合に出ることに、すごく不安を感じていたと共に、すごく緊張していました。

3日間の国内合宿では、最初は緊張していましたが、普段練習できないメンバーと、質の高い練習をすることができ、すごく勉強になったし、強い向上心が芽生えてきました。自信を失っていた自分のプレーも、合宿の中で調子を上げていくにつれて、自信を取り戻すことができました。メンバーのみんなとは、自然とコミュニケーションをとることができ、とても楽しく充実した3日間を過ごすことができました。

中国に渡り、いよいよ大会が始まります。中国と韓国の選手のほとんどは私より体が大きく、打っているボールもすごく重かったです。私は深いボールをコントロールすることが得意なのですが、なかなか自分のペースにさせてもらえず、打ち負けてしまい、ポイントを取られていました。でも、後半になると相手のボールの力を利用して打つことができ、自分のペースで試合を進めていくことができました。

今回の大会では、非常にたくさんのことを学ばせていただきました。自分に足りないものを知り、たくさんの課題が見つかりました。これから先の自分のテニスに生かしていこうと思います。海外の人達とも仲良くなり、言葉の壁など全く感じなかった海外遠征でした。

最後になりましたが、この大会関係者の皆さん、大会期間中サポートしてくださった先生方、メンバーのみんなには本当に感謝しています。ありがとうございました。皆さんと戦うことができ良かったです。



## 細 沼 千 紗

(富士見ヶ丘高等学校)

まず始めに、今回の日・韓・中ジュニア交流会に参加させていただき、素晴らしい毎日を過ごすことができました。ありがとうございました。

今回の交流会は、靱での事前合宿から始まりました。普段は試合会場でしか会うことのできないメンバーとの長時間練習や、大学生やプロの方々にご指導もしていただき、充実した3日間を過ごし、メンバーとの結束も強まり、とても良い状態で中国に向けて日本を出発することができました。

中国の試合会場コートは整備がしっかりされていて、とてもプレーしやすかったです。しかし、対戦相手の中国、韓国の選手は身体が大きくパワフルテニスでした。互角で勝負しても押されてしまうことが予想できたので、自分のテニス・・・粘りを最大限出すことに決めました。結果として、180センチの地元濰坊の選手には負けてしまいましたが、中国、韓国選手とのシングルス2試合、また園田学園の上選手と出場したダブルス2試合ともに勝利することができました。ただ、日本は4連覇がかかっていましたが、達成して来年の5連覇につなげることができなかったことは残念でした。

結果としては残念な交流会でしたが、自分のパワーの足りなさを確認でき、帰国してからの練習に活かすことが出来ると思いました。そして、団体戦の楽しさも再確認でき、仲間たちに感謝しています。

最後になりましたが、大会関係者の皆様、引率の先生方、サポートしてくださった方々、チームのみんな、ありがとうございました。



## 山 口 真 琴

(九州文化学園高等学校)

最初に、日・韓・中ジュニア交流会のメンバーに選んでいただき、ありがとうございます。この遠征で貴重な経験をさせていただいたことに感謝します。初めての海外で、なおかつ日の丸を背負って戦う責任感と緊張でいっぱいでした。

3日間のチームのメンバーとの大阪合宿ではヒッティングと指導をしていただきました。深い球でラリーを続け、それに球のスピードを上げることが大切だと改めて感じました。

初戦の中国戦では、私はストレートで負けました。相手は私より体格が良く、パワーがありました。パワーテニスについていけず、返すだけになりました。

2日目の地元濰坊戦は、ダブルスにも出させていただきました。シングルスは、ファーストセットは取りましたが、セカンドセットから相手のテニスが変わり、それに合わせてしまい、負けにつながりました。ダブルスは、リターンミスが目立ちました。ポーチに出るものの完全に決めきれなかったり、簡単なミスがありました。スーパータイブレークで、マッチポイントを握りましたが、負けてしまいました。ダブルスは苦手ですが、今回レベルの高いメンバーと組むことが出来たことで、学ぶことが多く、もっと練習をしてうまくなりたいと思いました。

最終日の韓国戦で感じたのは、韓国と日本のテニスは似ているということです。今回の相手は、打つところとつなげるところのメリハリがきちんとついていて、球を確実に入れてくるプレーをしていて、それについていけずセカンドセットは取ったものの、勝つことができませんでした。

最終的に日本チームは1勝2敗で4位に終わり、私も1勝もできずチームに貢献出来なくて、とても悔しいです。しかし、これからの自分の課題をたくさん発見することが出来ました。これからの練習で、一つひとつクリアしていきたいと思います。それから、中国と韓国の選手と試合を通じて交流が出来て良かったと思います。会話は英語でしたが、単語と身振り手振りで何とかなるものだと思います。

開会式はとても感動しました。試合では、悔しい思いもしましたが、楽しいこともたくさんあり、この遠征に参加出来て本当に良かったです。

最後に、この大会に参加出来たのは、毎日指導してくださる監督、一緒に練習しているチームメイトのおかげです。それから、全国高体連の皆様、引率して下さった先生方、一緒に戦ってくれたチームのメンバー、本当にありがとうございました。





## 上 唯 希

(園田学園高等学校)

まず初めに、今回の「日・韓・中ジュニア交流競技会」に選考して頂き、ありがとうございました。

事前合宿には、県大会の試合と重なってしまい参加することができず、普段一緒に練習する機会が全くないメンバーだったので、少し残念でした。

中国に行ってからの7日間はとても充実していました。遠征で海外に行くことは2回目だったのですが、試合という形で行ったのは今回が初めてです。最初は衛生的に大丈夫なのか、色々な種目の選手と仲良くやれるのかとても心配でしたが、そんな不安とは裏腹に、中国の空気は汚かったですけれど、すぐに慣れ、日本の違った種目の選手をはじめ、韓国や中国の選手とも写真を一緒に撮ったり、コミュニケーションをとることができて、本当に楽しかったです。

25日、最初の対戦相手は中国でした。私は、ダブルスにも細沼さんと組んで出させていただきました。最初はあまり息が合わず1-4とファーストセットを取られてしまったのですが、2セット目から細沼さんが引っ張ってくれて、逆転勝ちすることができました。そして、2勝2敗で私に回ってきた時、日本での団体戦で今まで勝敗が自分にかかったことがなかったので、少し緊張していて、ファーストセットを取ったにも関わらず、そこから逆転負けされてしまい、本当に申し訳なかったです。

26日は地元の濰坊と対戦。そして27日は韓国戦。この試合でも細沼さんと組んでダブルスに出させていただきました。1回組んでいたということもあり、とても組みやすく、自分たちのプレーができたと思います。試合後に「楽しく試合できたね」とお互いが思い合え、日韓中戦の中で一番思い出に残る試合となりました。

この大会を通して、たくさんのことを学ぶことができました。体格もパワーも違う海外選手にどうしたら勝てるのか、自分自身の課題も明確になり、とても良い経験になりました。この経験を今後に生かしたいです。また、このメンバーで戦えたこと、そしてこのメンバー11人で1週間何のトラブルもなく過ごせたことが嬉しいです。

最後になりましたが、今大会に関係して下さった方々、引率し指導して下さいました先生、共に1週間過ごし戦った選手のみなさん、本当に感謝しています。ありがとうございました。